

# 令和4年度 第1回滑川市DX懇話会 議事概要

日時：令和4年10月19日（金）19：00～20：30

場所：滑川市役所本館3階大会議室

## 【委員】

役職	氏名	備考
滑川市自治会連合会 会長	澤田 隆之	
滑川市社会福祉協議会 常務理事	斎木 秀則	
富山医療福祉専門学校 専任教員	橋本 武憲	
滑川商工会議所 専務理事	杉田 隆之	
滑川市観光協会 会長	早川 祐一	
株式会社笑農和 代表取締役	下村 豪徳	
滑川市教育センター 所長	松田 弘人	
株式会社TAM 専務取締役	稲場 康晴	
富山大学名誉教授	山西 潤一	
市民公募委員	荒井 誉利香	
市民公募委員	岡部 誠	

滑川市最高デジタル責任者（CDO）	柿沢 昌宏	会長（副市長）
滑川市最高デジタル責任者（CDO）補佐官	岩本 健嗣	富山県立大学工学部 情報システム工学科 准教授

## 【事務局】

教育長	上田 良美	
総務部長	石川 久勝	
産業民生部長	黒川 茂樹	
教育委員会事務局長	上田 博之	
企画政策課長	小川 勇二	デジタル化推進班長
総務課長	櫻井 雄一	
財政課長	長崎 一敬	
デジタル化推進班員	9名	

## 【次第】

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 委員等紹介
- 4 説明
  - (1) DXの推進について
  - (2) 滑川市のデジタル化施策等の取組状況について
- 5 意見交換
- 6 閉会

## 発言要旨

- 市長あいさつ
- 委員等紹介
- 資料説明（資料１・２）
- 説明事項等に対する意見交換

委員：

富山県では県内のケーブルテレビ9局で一般社団法人を作り、富山県ケーブルテレビ協議会を運営している。その中の射水ケーブルネットワークで市内に水位センサーなど様々なセンサーを利用し、ダッシュボードという一覧にするという機能を提供している。

個人的には、国土交通省が提供している河川の防災状況のサイトを利用しており、道路カメラや水位計の状況確認しながら行動できるのが便利だった。先ほど説明があった取組状況に防災関係が含まれていないが、防災系のこともデータをとって、市民に提供するというような取組もやったら良いのではないか。

高齢の方に対して、IoT見守りについて説明があったが、遠隔医療まではいかなくても、訪問するかわりに、Zoomを使った声かけも実現できると思った。

会長：

防災や見守りなどの安全安心の分野も大事だというご意見でした。

委員：

自治会長を2年間務めた中で、デジタル化が遅れていることを痛感した。行政の中で、業務の横の連携によって、お互いの課が何をデジタル化で効率よくできるか、あるいは何がデジタル化できないかということ整理してほしい。自治会長をしていると市民課、福祉介護課、まちづくり課とやりとりをするが、データ連携ができていない。福祉介護課には地域にどんな支援人材がいるか、民生委員が苦勞する人がいるか、というデータを持っているが、市民課にはそういうデータが連携されておらず、ほしいと伝えても、個人情報だから出せないと言われた。自分の町内に関しては、個人的にデータベースをつくって管理しているが、どんなことがデジタル化で情報共有でき

るのか、職員のデジタル化意識をもう少し高めてほしい。

資料2の項番13のWi-Fiについて、市内の公共施設にWi-Fiがはいるのはよいこと。児童館にWi-Fiがなく、去年ワークショップをした際、自分でルータを持ち込んで実施したが、県外の利用者も多い施設なので整備して欲しい。

自分の町内では、独自にホームページを立ち上げたり、電子回覧を活用したりしている。「結ネット」の話があったが、導入するならするで、統一的にした方が役員の負担も軽減される。

市民のリテラシーを高める研修が必要。自分の町内は140世帯中50世帯が「安心ネットワーク」で情報交流ができるが、リアルとネットを調和させている。お年寄りに対しネットリテラシーやネットトラブルの講習会を行っている。

市内の中学校にプログラミングをできるクラブがないという、子供たちの声がきこえてくる。先生がいらないなら地域人材を活用する方法もある。

会長：

市役所内のデータ連携、市民が利用する施設におけるWi-Fi、町内会における「結ネット」を活用した共通化、情報リテラシー、学校における外部人材の登用・活用の必要性について、現状も踏まえながら検討したい。

委員：

先ほど意見のあったセンサーの話は楽しそうだったと思った。センサーを活用してプログラミング教室の実施や、人流の把握などに活用できないか。DXにより様々な分野で複合的な取組ができると感じた。

委員：

デジタル化は、地域活動の負担軽減のために必要。また、デジタル格差の解消が大事。町内会長が高齢化しているが、若い方に町内会活動に参加してもらうには、デジタル回覧の導入も必要。

結ネットについて、導入の支援ではなく市が整備を進めてほしい。

委員：

DX推進計画の期間は？

事務局：

5年間を想定している。

委員：

細かなところでデジタル化の取組みをしていて、結構進んでいると感じた。技術ありきで考えるのは危険。何のためにデジタル化するのか、その課題を解決するための手段がDXだと思っている。5年後にどういう課題解決になっていれば、市民が幸せな

のかということも、議論できれば良いと思う。

自分の分野の農業でいうと、5年後はまだ大丈夫だが、2050年には農家が今の4分の1になるという統計が出てきている。滑川市も農家が減っていくと、今の作付面積を維持できないという状況。市内の全ての土地データをデジタル化するなかで、現時点で何歳の人が作付けしているが、5年間でシミュレーションかけてそれをどう誰に渡していけば良いのかという、作付者の年齢、何を植えているかなど、今まで見えてなかったものを見える化するというデジタル化が、農業にとっては必要だ

すべての分野で見えていなかったことを見える化することで、効率化したり分析したりできる。何を見える化するべきかも議論できたらよい。

また、林業や中山間が廃れると、漁業も影響が出るので、誰が維持してやってくのかということが重要。温暖化が進んでいて、環境変化もデジタル化で見える化すべき。5年後を推測せず、今の延長でいき、資源がなくなること農林水産関係者は危機感を感じている。そういう課題を改善し対策できるために、環境を見える化していくということを盛り込めると良いと思う。

会長：

地域課題解決、何が各分野で問題か、そこをデジタル化し分析し対応していくということに対し、ごもっともであるので検討してまいりたい。

委員：

産業界の意見として、滑川市はこれまで通信インフラの整備が遅れていた。昨年度ようやく光化の工事が行われたが、半導体不足もあり、切り替えがなかなか進んでいない。5G通信についても、楽天モバイルのみで使えるエリアも限られている。docomo、au、ソフトバンクは市内で5Gを使えない。富山市の隣にありながら、通信網は格段に遅れている。そういう面からも、市民のデジタル化の意識が比較的低く、新聞にもあったマイナンバーカード交付率15市町村中14位という結果に表れている。今後は、DX化に向けた市の計画を市民へPRし、積極的に発信していく必要がある。

公共施設のWi-Fi化について、交流プラザがほとんどつながらないと言われる。地区公民館にも設置されているので、災害時を想定し、Wi-Fi増強を検討してほしい。

インバウンドが戻り、外国人の研修生が増えてきた。市営住宅などありとあらゆる公共施設にWi-Fiを完備してほしい。

会長：

インフラ整備がこれまで遅れており、マイナンバーカードの順位にも如実にあらわれていたというご指摘だが、Wi-Fiについてもスポットをふやししながら、さらに、充実してまいりたい。

委員：

Wi-Fiは何台までつながるのか。

事務局：

アクセスポイントの種類にもよるが、市で最近整備しているものの上限は 200 数十台となっている。実際にスムーズに通信できるのは 2、30 台とメーカーから聞いている。

委員：

公民館で災害時は 30 台しかつながらないということになる。

事務局：

動画視聴など非常に重たいサービスを同時に利用した場合には、それくらいに制限されるが、一般的に情報を見るインターネット閲覧する程度であれば、そこまでの制限はないという認識。

会長：

そういったことも踏まえ、より適切につながるように整備していく。

委員：

自分の町内会高齢化が進んでいる。山西委員の町内会の高齢化率は？

委員：

高齢化は進んでいる。回覧板も電子と紙を併用していて、140 世帯中、紙がいらないのは 3 割。回覧板はみたら終わりなので、HP に載せると便利。緊急連絡網も町内で 23 グループに分かれていて LINE で連絡できるが、携帯とは？という人もいて、全員ができるわけではない。だから無理にデジタル化を進めてはいない。「インターネットや LINE は情報が漏れる」や「友達でもない人とつながるのは嫌だ」という誤解もあり、啓発活動はした。

委員：

観光面で言えば、ベトナムランタンまつりや旧瀬羽町街道などの情報を地元で共有し、発信できるためには Wi-Fi が大事。今後 Wi-Fi は不可欠であるので公共施設だけでなく民間にも協力してもらって情報を得やすい環境の整備を進めてほしい。

委員：

教育分野では、説明もあったが、来年度から学校・保護者間の連絡体制について検討を進めている。朝、家庭からの欠席連絡を担当がそのたびに職員室で受けるのは大変。欠席連絡をいつでも連絡できるようなシステムが導入される予定。保護者にとっても教員にとっても良い。

学校の図書館司書からの意見として、学校の図書館システムと市立図書館・子ども

図書館のシステムが連携していない。図書館に問合せをしてデジタルで検索して、子どもに紹介したり、便利にできれば、学校図書館の利用、子ども図書館、市立図書館の利用にもつながるのではないかと。データが連携できるシステム構築を望む。

委員：

ツールやシステムは有効であれば入れていけば良いと思うが、そもそも制度が正しいのか見直すことも必要。従来の制度のままでデジタル化するのではなく、制度自体が今の時代にマッチしているのかを見直すべき。

残すべきところは、誰にでもわかりやすいように残していくべきだが、どういう議論がされたかということを残していくことが大事。数年後にまた同じ議論するのではなく、継続的に使えるような形で残していくベーシックプラットフォームみたいなところに力を入れていくべきだと思う。

委員：

市のコロナワクチンの接種をお手伝いしているが、副反応が怖いから打たないなど、若い人が3回目の接種をしない。接種券が届いてもそのままにしてしまうので、打たないという選択ができるシステムであれば、健康センターの負担軽減につながるのではないかと。

滑川市の接種に携わっていると、滑川市の看護師の少なさを感じる。医療を支えていくために看護師や医療スタッフが連携して対応できるシステムがあると良い。

また、学生を見ていると思いのほか ICT ツールを使ったことがない生徒が多い。高校生のときに ICT の教育がされておらず、関心があまりないことが気になっている。

委員：

IoT 電球は負担軽減のため導入したシステムで、実際、倒れられた方の発見につながり効果があった。

ボランティアセンターという看板をかかげているが、ボランティア人材を増やすため LINE を活用して募集を予定。研修会の申し込み等にも利用したい。

社会福祉協議会は、介護事業所という側面もあるが、月末に事業実績を紙ベースで配っており、時間も要するため苦慮している。介護保険法の関係で必要な部分もあると思うが、紙の資料をやめることができれば印刷や配布の手間が省け、負担軽減につながる。

会長：

福祉・ボランティア分野はこれからますます重要になってくるが、先進的に取り組んでいる社協もあるようなので、情報を共有しながら進めていけば良いと思う。先ほどあった、デジタル化の前に制度見直しをとというご意見と同じで、変えられるところは、制度を変えていこうということかと思う。

ひとつおき、委員の皆様からご意見いただいたので、岩本先生から、各委員の意見

も踏まえて、ご意見をいただけたらと思います。

CDO 補佐官：

センサーデータの話は、非常に重要だと思っている。滑川市というよりは、県のデータ連携基盤というもので対応できると思う。滑川市もその枠組みに参加しているので引き続き検討してもらいたい。

市役所内部のデータ連携は水野市長、柿沢副市長はじめ前向きに取り組んでいるので、進めていけると思っている。

自治会の活動は非常に重要だと認識しており、「1人も取り残さない」の意味は、紙やアナログの方を大事にしながらも、全員がデジタルを活用できるように諦めないということだと思っているので、それも含めて取り組めればと思っている。

中学校の外部人材の議論があったが、山西先生が滑川市にいるのは強みなので、属人的だが、もっと学校現場で山西先生を使っても大丈夫と言っていたと認識している。

また、センサーデータを教育に活用したらよいというのは、面白いアイデア。教育現場でリアルなデータを活用するといったこともやっていけたら良い。

作付面積等をデータ化し、シミュレーションをかけていくという話も非常に大事。農事組合法人のデータは、どこかにあるのではないかと思うので、まずそういうものをオープンデータにして、活用できるような方向を考えられたらと思う。

会長：

ひととおりの意見をいただいたので、貴重な意見を取り入れさせていただき、次回は計画の素案という形で提案しますので、議論をしていければと思います。

今後のスケジュールについて説明

次回は、12月下旬の開催を予定。本日の意見を踏まえてDX推進計画の素案としてとりまとめて提示する。

閉会